

言語・学習ストラテジを共有する入門期日本語の開発

佐藤 礼子・山元 啓史(東京工業大学)

本発表では、日本語入門期の留学生が、個々の学び方に応じたストラテジを自身で見つけるためのコースの設計、授業の構成、教材、学習者の反応を報告する。

1. はじめに

- ・目標に向かって自らの学習を調整しながら能動的に学習する「自己調整学習」(Zimmerman, 1990)
- ・目的や課題を共有することが気づきを促進(Hadwin et al. 2011; 佐藤, 2012)
- ・**入門期にこそ学習方法を共有すべき ⇒ 入門期ストラテジー日本語コースの開発**

2. 授業構成・内容・教材

表1 授業の基本方針(簡略版)

1. 学習の方法を知り、自らも伝えること
2. 現実の言語と会話の本質について議論すること
3. 内容を重視し、理解のための文化を学ぶこと

受講者:2022年度はオンライン3クラス(19名、23名、10名)と対面2クラス(15名、14名)

授業の構成:

- 1.日本語・文化・その学習について話し合う演習(SJ)、
- 2.自然な会話の演習(NS)、3.生教材を用いた演習、
- 4.宿題 D4E(オンラインディクテーション)(佐藤他, 2022)

表2 各回の授業の内容(概要)

SJ=Strategic Japanese, NS=Natural Speaking, 生教材

回	教材	概要
1	SJ	学習ストラテジー、第一印象を述べる、会話の目的、学習機会
	NS	「最近、どこ行った?」
2	SJ	形容詞
	NS	「何かはじめた?」
	生教材	歌謡曲・童謡などの歌詞の聞き取り (1)
3	SJ	動詞、シャドーイング、学習アプリ
	NS	「今、時間ある?」「~知ってる?」
	生教材	歌謡曲・童謡などの歌詞の聞き取り (2)
4	SJ	日本の食文化(メニュー)を考える
	NS	「ああ、よかった!」(感想を言う)
	生教材	ビデオ中の単語の聞き取り (1)
5	SJ	あいづち。文化を語る。会話ストラテジ
	NS	「もう、見た?」「まだ?」
	生教材	ビデオ中の単語の聞き取り (2)
6	SJ	独り言。適切なスタイルを考える
	NS	「食べ(に)いこ!」「食べましょう」
	生教材	食品ラベル(実際・実物からわかること)
7	SJ	教室外での活動(小学校訪問)
	NS	「今、何してる?」(まず言うこと)

表3 話し合い活動でのタスクシート内の話題例

第1回授業(第一印象、学習ストラテジ)

SJ はじめての日本語の印象はどうか。
NS 最もシンプルかつ自然に話すにはどうすればよいか。
生教材 なぜ聞き取りは難しいか。

第5回授業(あいづち、会話のストラテジ)

SJ 会話を途切れられないようにするにはあいづち以外にどんなテクニックがあるか。
NS 短く話してみた時には、どんな気持ちがあったか。上手に話せるようになるには、どんなテクニックやことばを追加すればよいか。
生教材 ドラマを見る時に難しいポイントは何か。その難しさを克服するにはどうすればよいか。

3. 実施結果

表4 コース実施後のレポートに見られた学生の反応

□学習の方法:言語・学習ストラテジ

1. 日本語のストラテジと文化的なストラテジには強い関係があることがわかった。
2. 日本語の知識そのものよりも日本語で話すための多くの方法、ヒント、アドバイス、提案を学べた。

□内容を重視

3. 授業は実践的で、地域の人と接触し理解するなど、日本で新しい生活に適應する方法を教えてくれた。
4. 実践的なアプローチが重要。歌を聴いて歌詞を考える、テレビ番組やアニメを理解しようとするのは、日本語学習を加速させる強力なテクニックだ。
5. 暗記や反復学習といった退屈な勉強ではなく、多くの問題に気軽に取り組むことで、問題を別の角度から見るができるようになった。

□現実の言語

6. 今まで学んだ日本語授業と違い、日常会話には難しい文法や語彙があまりないことがわかった。
7. 様々な場面で使われる短縮形や一般的な表現を知り、それに適切に対応することが必要。
8. フィラー、カジュアルな表現、リアクション、簡単な動詞の活用など、自然な形で話すには欠かせない。

□学び合い

9. グループディスカッションで他者の視点を知ることができたのが興味深かった。多くのことを話した。
10. 日々のコミュニケーションは日本語の試験を受けるのとは違う。日本にいるのだから先生やクラスメートとコミュニケーションをとることが重要だ。

□心理的安全性

11. クラスの雰囲気はリラックスでき、精神的な負担も少ない。
12. 様々な文化圏の人たちと英語で授業を受けて、壁を乗り越えることができた。

本授業で受講者は、多様なストラテジがあることを知り、学び合いを通して効果的ストラテジが何かを検討し、短い会話の活動で学習の目的が明確になったと考えられる。

付記:本研究は科学研究費助成金(課題番号 :18K00711, 代表:佐藤礼子)の助成を得た。
引用文献:

佐藤礼子 (2012)「日本語の中級読解授業における説明活動を用いた理解の構造化の試み」『日本語教育方法研究会誌』 Vol.19, No.1, pp.74-75.

佐藤礼子・榎原実香・小松翠・山元啓史 (2022)「日本語ディクテーションサイト(D4E)の開発」、『日本語教育方法研究会誌』第 28巻, 第 2号, 128-129.

Hadwin, A.F., Jarvela, S., & Miller, M. (2011) Self-regulated, co-regulated, and socially shared regulation of Learning. In *Handbook of Self-regulation of Learning and Performance* (pp.65-84). New York: Routledge.

Zimmerman, B.J. (1990) "Self-regulating academic learning and achievement: The emergence of a social cognitive perspective", *Educational Psychology Review*, Vol. 2, No. 2, pp. 173-201.